



別府大学大学院主催

読むという営み

— 文字から空気まで

「読む」という行為はなにも文字を読むことだけを意味するのではありません。文字以外に、心を読む、行間を読む、手の内を読む、顔色を読む、腹を読む、先を読む、遺伝子情報を読む、計器を読む、心電図を読む、グラフを読む、画像を読む、票を読む、流れを読む、流行を読む、歌を読む、人数を読む、空気を読む、などさまざまな「読む」があります。

このように、人間は様々な「読む」を通して、日々生活しています。「読む」ことなしには生活が、大きく言えば、生きることが成り立ちません。

そこで今回の講演会とシンポジウムでは、人間の普遍的な行為としての「読む」という営みについて、基調講演と大学院4専攻の教員の報告をもとに、専門を超えた共通点、専門独自の点などを検討します。

2024年

日時

10月5日(土)

13:00 (※受付開始 12:15)

会場

別府大学メディア教育・研究センター4F
メディアホール

大分県別府市北石垣82



交通アクセス



キャンパスマップ

I 講演会 (13:10~14:10)

「物語を読む「私」 — 『源氏物語』の読み方」

浅野 則子
(日本語・日本文学専攻 教授)

『源氏物語』は千年以上読み継がれてきた。現在、私たちが『源氏物語』を読もうとする時、出版されている様々な本から選び、まず、登場人物に注目し、筋を追って読み進めていこうとする。読むことは筋を理解することに他ならない。しかしながら『源氏物語』はかつて読み手の興味によって読み手主体の読み方をしていたこともあった。本講演では、物語を読むという行為が時代とともに変化するというを考えてみたい。

浅野 則子 (あきの のりこ) 略歴

1956年生まれ。横浜育ち。日本女子大学大学院文学研究科博士課程前期修了。1997年に別府大学助教授就任。2012年より現職。別府大学大学院文学研究科長(2014-19年度)、附属図書館長(2020-23年度)、上代文学会理事、大分放送文化・スポーツ振興財団評議員。専門は古代和歌史、和歌という限られた言葉の世界で、表現がどのように共有されるか、また時代とともに変容するかについて研究している。また近年は和歌が散文の中でどのように機能しているかについても研究の対象としている。著書『大伴坂上郎女の研究』(翰林書房)、共著『女の方葉集』・『天葉の方葉集』(笠間書院)、『萬葉集名花百種鑑賞』(新典社)など多数。

II シンポジウム (14:25~16:15)

- 浅野 則子 (日本語・日本文学専攻 教授)
- 山野 敬士 (日本語・日本文学専攻 教授)
「解釈せずにはいられない — アメリカの詩や小説 —」
文学作品を読むことは、それを深く広く読む作業に他ならない。本シンポジウム報告では、「米文学史」の講義などで実践している読解方法とその可能性について紹介します。具体的にはホソンとフロストを扱います。
- 針谷 武志 (史学・文化財学専攻 教授)
「アーカイブズの文字 — 書字と識字について —」
文書はなかく手書きで作られた。識字能力は読み書きでなく、書き読みで修得されていた。識字(率)に関する研究はここ15年ほどで大きく変わった。西洋史の提唱する「限界リテラシー」との対比もしたい。
- 齊藤 哲也 (臨床心理学専攻 教授)
「罪を犯す心をよむ」
心理学には、なぜ罪を犯したのか?どうすれば罪を犯さなくなるか?について、研究実践する領域があります。今回、罪を犯す心をよむというテーマで非行・犯罪心理学の取組についてお話しします。
- 大坪 素秋 (食物栄養学専攻 教授)
「生命の設計図を読む」
1900年に再発見された遺伝の法則は遺伝子の実体であるDNAの構造の解明をもたらした。生命の設計図DNAを読み取って、多様な生物進化の歴史を理解するための新しい手段が今後必要と考えられる。

入場無料

お問い合わせ

食物栄養科学部 事務室
担当: 植木

電話 0977-66-9630
FAX 0977-66-9631

別府大学

検索